

石狩翔陽高等学校における キャリア教育への取り組み

北海道石狩翔陽高等学校
総合学科推進部長

鈴木広基

1 本校の概要

本校は道都札幌の北に隣接する石狩市にある。平成13年4月に普通科から総合学科に学科転換した。1学年8クラスからなる大規模校で、生徒940名のうち65%が石狩市外（そのほとんどは札幌）から通学し、男女比はおおよそ35%対65%である。普通科目に加え、特に商業・情報系と福祉系の専門科目が多いという特色がある。

卒業後の進路はおおよそ大学・短大が2〜3割、専門学校が5〜6割、就職が1〜2割であるが、不況の影響もあり、近年「進路未決定者」の増加が目立ってきている。

生徒の様子は、総じて素直で落ち着いている反面、自分の苦手なことに挑戦するような気構えに欠ける生徒が多い。たった1回の挑戦で就職をあきらめてしまうケースも見られ、キャリア教育を重視する総合学科として大きな課題となっている。進路を決めた生徒に対しては、いかに目的意識を持つて高校生活を過ごさせ、各自の進路

先に繋げさせられるかを目標に、日々試行錯誤を続けている。

なお、本校のキャリア教育は、進路指導部と総合学科推進部（以下「推進部」）の連携により行われている。進路先に関する具体的な情報提供、ガイダンス、講習、面接指導等は進路指導部が主催し、総合学科の必修科目でありキャリア教育の中心ともいえる「産業社会と人間（産社）1年次」および「総合的な学習の時間（2年次・総合学習）3年次「課題研究」」指導の企画・立案を推進部が行っている。推進部ではこれらを通し、生徒の「意識面からのキャリア教育」を行っており、今稿はこの視点によるものであることをご了解いただきたい。キーワードは「課題認識能力」の育成である。

2 「キャリア」教育とは 〜キャリア教育実施の経緯〜

スーパードットによると「キャリア」とは「生涯において個人が果たす一連の役割、およびその役割の組み合わせ」とある（下村英雄『キャリア教育の心理学』より）。人間の究極の幸せが「人

に愛されること、人に褒められること、人の役に立つこと、人に必要とされること」であり、その少なくとも後者3つを職業が提供してくれるのであれば（坂本光司『日本でいちばん大切にしたい会社』より）、前述の目的意識あるいは「キャリア意識」を高める教育の最大の狙いは「自分が将来、世の中において、どのような役割を果たせるのかを『自分自身で認識した課題点』から、どれだけ捉えさせられるか」、そしてそれが「今勉強していることとどのような繋がりがあるのかをどれだけ意識させられるか」ということになる。

2〜3年次の時間割を、約160もの選択科目から自分で選び作成する本校において、この意識は重要であり、学科転換以来多くの実践が行われてきた。以降、この観点でのキャリア教育について、特に最近のものを簡単に紹介する。

3 キャリア教育のプログラム

①1年次「産社」（2単位）

学習指導要領によれば、この科目の狙いは、「望ましい勤労観、職業観の育

成」「社会の変化についての考察」「生き方や進路についての考察及び各教科・科目の履修計画の作成」とある。教科書需要数を教育委員会に提出するため、遅くとも8月末には2〜3年次の時間割を決めさせる必要があるが、前期3単位・後期1単位で実施しているが、入学したばかりの生徒に対して将来の進路を見据えて科目選択をさせることには、特に明確な進路希望を持たない生徒に対して難しさを感じている。

そこで本校では「自分が大切にしたい科目は何か」という視点で生徒に選択科目を考えさせている。科目間のバランスをとること（例えば芸術分野への進路を考える生徒に対しても、英・数など普通科目の履修を検討させるなど）は、生徒の進路希望がしばしば変化することを考えれば大切であるが、極端に言えば「一生懸命にさえ取り組めば、どのような科目でも、あらゆる進路に役に立つ」のである。野球部の練習に一生懸命取り組んだ過程で身につけたものは、プロ野球選手にならずとも人生において大きな意味を持つことと同様である。「大切にしたい科目なのだから一生懸命取り組もう。そうすれば自分の進路に何らかの形で必ず繋がる」ということを生徒には意識させたい。

また、「必要・不必要」という考え方で科目選択をさせるのは（大学受験等を考えればどうしてもそのような指導になりがちであり、現実的にそれが必要な面もあるが）、危険である。世の中の事象すべてに意味があり、その意味に込めるため、そもそもすべての職業

や学問がこの世に存在していることに気づかせてこそ、本当の「職業意識の涵養」に結びつくのではないだろうか。「コンピュータが好きだが情報関連企業からの求人がない」とあきらめる生徒に「なぜ好きなのか」を徹底して問答し、その興味対象の本質的な意味（役割）に気づかせるとともに、ありとあらゆる業種・職種にICT技術が深く関わっていることを理解させるような「カウンセリング的キャリア教育」が、今後ますます重要になるだろう。

産社ではこの他に、新聞スクラップ課題や、職業調べ、ライフプランの作成等を行わせているが、その根底にある狙いは「世の中の『課題』を自身の視点で認識し、その解決にあらゆる方法で貢献している『職業』との結びつきを考え、さらにそれが自分の得意なことや進路希望とどのような繋がりがあるのかを考え続けよう」である。

さらに「進路適性検査（今年度からGATB）」「進路別ガイダンス」「社会人講話」「企業・上級学校見学会」「上級学校出前授業」等なども進路指導部と連携しながら行っているが、大規模校である本校では全体的な指導にとどまっている感が強い。しかし、このようなメニューを実施する際も、必ず前述の「狙い」を意識させる発問からなるワークシートをそのつど生徒に記入させ、評価をして返却したものをフアイリングさせている。

②2年次「総合学習（総学、1単位）」および3年次「課題研究（2単位）」

前述の産社の狙いを達成するには

3年間を通じた継続的な指導が必要であり、本校では総学や課題研究においても継続指導を行っている。逆に言えば、3年次で取り組む課題研究に向けて、その練習を産社・総学で反復していくとも言える。

紙面の関係で詳細は割愛するが、本校の課題研究は「自分自身で課題を認識し、そこから研究テーマを個人ごとに設定し1年間かけ研究を行い発表する」というものである。特に「課題認識」に重点を置き、新聞記事のスクラップ課題や「あしたをつかめ（NHK）」「ルビコンの決断（テレビ東京）」「ガイアの夜明け（同）」などの各種メディアも視聴させながら、また産社・総学とも「生徒向け通信」を発行するなどして「普段見過ごされている世の中の違和感（大西泰斗他『16歳の教科書より』）」に気づかせ、大切に育てていく。

「自分で課題を認識できる能力・姿勢」は生涯にわたり必要であり、「それがどんな小さなことでも」自分の得意なことを生かし、その解決に関わることができるとことを漠然とでも実感できた生徒は、ある種の自信を持って「社会・職業」というものに立ち向かっていけるのではないだろうか。その「自ら立ち向かう姿勢」を継続することによってのみ、「キャリア」は蓄積される。

4 実施体制

①担任の先生役割

産社の指導では科目選択指導を中心

に行っているが、個人面談等で多忙を強いられる。副担任も協力するが、あくまでサポート的な業務にとどまざるをえない。本校ではキャリア・カウンセラーが不在のため、担任の負担をどのように軽減していくかが課題である。

②進路指導部の役割

「進路未決定者（いわゆる「ゼロ回受験者」も含む）」をなくそうという目標のもと、例えば1年次に対して「科目選択相談週間」を設定し、大学受験のシステムや昨今の就職状況、専門学校への傾向等の情報提供やアドバイスを行っている。しかし、このような担任の先生以外の指導を自ら積極的に受けようとする生徒は少数であり、これにいかにか全体的な取り組みにしていけるかが課題である。

また、前述したような「進路別ガイダンス」「企業・上級学校見学会」などでは、外部機関との連絡・調整等で推進部と密接に連携を図りながら行っている。

5 生徒・卒業生からの反応、感想

「キャリア意識」を育てる指導については数値的な検証がしにくいし、その効果があったとしても社会に出て5年後10年後に気づくことかもしれない。本校でも観点を絞った設問によるアンケート調査は整備されていないが、本校でのキャリア教育の総まとめともいえる課題研究を終えた3年生の感想を最後に紹介する。

△平成21年1月22日実施 3年生対象アンケートより▽

質問16「課題研究を通して学んだこと、得たこと、今後の人生で役に立つこと」

○課題研究という機会が、調べる力・発表する力などが養えました。これらはこの世界に行っても必要とされることなので、この機会を得てよかったと思います。

○課題研究で学んだことは、「疑問に思わなければ始まらない。そしてその疑問を調べて、そこで生まれた新しい疑問をまた調べて……を繰り返していくことがとても大切」で、人間的に成長できるんだなってことを学びました。

○自分の将来の目標に関係することを、たくさんさんの時間をかけて調べること、よりその職業に魅力を感じるようになった。進路に関するテーマ設定をしたため、論文を完成させてみて、全体的に学べたし、得ることができました。

○計画して実行に移すことは、大変だと感じた。でも、課題研究で好きなことを研究できるのは、これから社会に出ても必要で、学ぶ姿勢が身につけてきたと思う。

○日常生活の中で疑問に思つこともこんな風に調べたりする機会はないから、何かについて長い時間を使って研究し、その結果、自分の納得のいく答えを見出すことができたのは、学ぶこともたくさんあつて勉強になったと思う。

○課題研究を通して、一つのテーマをより深く研究していくことの難しさを学びました。知っているようで知らなかったことが調べていくうちにたくさん出てきて、さらに興味を引かれたことがあった。自分の進路にも関係していることなので、この学んだことを大学へ行っても活用し、さらに深く知りたいと思いました。

○課題研究を自分の進路や夢と関係のあることに繋げることができたら、きっとその1年間はとても充実したものになると思います。